

令和6年度第8回霞ヶ浦自然観察会実施結果

日 時：令和7年1月18日（土） 9時～15時まで

テーマ：霞ヶ浦に飛来する冬鳥を探してみよう

場 所：稲波干拓（稲敷市稲波）、和田公園および妙岐ノ鼻湿原（稲敷市浮島）

講 師：川崎慎二先生（雪入ふれあいの里公園所長・日本野鳥の会茨城県幹事）

内 容：稲敷市稲波干拓では、オオヒシクイが毎年ロシアから飛来し越冬します。オオヒシクイは国の天然記念物に指定されているガンの仲間で、関東地方で見られるのはこの場所だけです。この観察会では、午前に稲波干拓でオオヒシクイを観察し、午後は和田公園および妙岐ノ鼻でチュウヒやオオジュリンなど湿原に飛来する冬鳥を観察しました。

参加者：17名

担当職員：6名

パートナー：6名

結 果：霞ヶ浦環境科学センターのバスに参加者全員乗車し、1日かけて、水鳥を中心に冬の野鳥の観察を行いました。この日は気温がやや低かったですが、快晴で風は弱く、日中は日差しがたっぷり、絶好の観察会日和となりました。

最初の観察地は、稲波干拓（稲敷市稲波）でのオオヒシクイの観察です。オオヒシクイは国の天然記念物に指定されているガンの仲間で、関東地方で野生の群れを観察できるのはこの場所のみです。水田の冬枯れの稲穂などを採餌している様子を観察することができますが、たいへん警戒心の強い鳥で、遠方にいるところを望遠鏡などを使って観察することが普通です。しかし、この日はたいへん恵まれた観察になりました。バスが野鳥観察舎に到着する寸前に50羽を超える集団が観察舎の目の前の水田に飛来し、1時間の観察時間を通じていろいろな生態を見せてくれました。講師の川崎先生も、地元のボランティアの方々も口をそろえてこんなことはめったにないことだといっていました。

次に、訪れたのは和田公園（稲敷市浮島）です。公園で昼食をとった後、霞ヶ浦の湖岸に出て水鳥の観察を行いました。ヒドリガモ、ホシハジロなどのカモ類のほか、大きなボラを

捕って杭に運び食べているミサゴ、クロマツの枝に悠然と止まっているハヤブサなど、普段見ることのできない鳥たちを観察することができました。

最後の観察地の妙岐ノ鼻（稲敷市浮島）では、広大なヨシ原に生息する絶滅危惧種チュウヒやオオジュリンを観察することができました。この観察は、オオヒシクイに次いで今回の観察の目標としていたので、皆さん大満足の観察会となりました。

この観察会では、目的の鳥を含め合計 39 種の野鳥を観察することができました。当日の解説ばかりでなく、観察場所やコースの準備をしていただいた川崎慎二先生には大変お世話になりました。ありがとうございました。

以下に、当日観察できた野鳥のリストを掲載します。

稲波干拓で見られた主な鳥類

オオヒシクイ、タゲリ、ノスリ、チュウヒ、チョウゲンボウ、コガモ、オナガガモ、カワラヒワ、ムクドリ

和田公園で見られた主な鳥類

ミサゴ、トビ、ハヤブサ、ヒドリガモ、ホシハジロ、カルガモ、オオバン、アメリカヒドリ、カイツブリ、カワウ、アカハラ、モズ、メジロ

妙岐ノ鼻で見られた主な鳥類

チュウヒ、オオジュリン、ホオジロ、ミサゴ

その他見られた鳥類

アオサギ、カモメ、カワセミ、キジバト、シロハラ、スズメ、セグロセキレイ、ダイサギ、タヒバリ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ハジロカイツブリ、バン、ホオアカ、ユリカモメ

第8回霞ヶ浦自然観察会



稲波干拓で観察を始める瞬間にオオヒシクイが飛来する



冬の水田で枯れた稲の穂をついばむオオヒシクイ



稲波干拓での観察の様子



観察舎前に掲示された写真や資料



和田公園での観察の様子 多くの水鳥を観察する



和田公園で見られた大きなボラを食べるミサゴ



和田公園でクロマツにとまったハヤブサ



最後の観察地妙岐ノ鼻での観察の様子